

## 東京オリパラに向け調印 モンゴル国の選手を支援

8月24日から開催された世界柔道選手権東京大会に先がけ、日整はモンゴル国の柔道代表選手の支援に関する協定を同国と締結した。2020東京オリパラに向け、本格的なサポート体制を開始する。



調印を交わした（左から）工藤会長、バッチジャルガル大使、モンゴル柔道連盟のブフバト専務理事

### ●2020東京オリパラに向けモンゴル国と調印

日本武道館で8月25日から開催された2019世界柔道選手権と2020東京オリンピックでの、モンゴル国柔道代表選手のコンディショニングから怪我の手当までのサポートを日整が協力することになり、世界選手権大会の開会前日である8月24日に、工藤鉄男会長と三橋裕之総務部長が駐日モンゴル国大使館を訪問。モンゴル国大使館および同国柔道連盟と日整との間で三者協定が締結された。

モンゴル国大使館では、スフバートル・ボロルチメグ公使参事官、エンフバト・エンフバートル三等書記官が出迎えてくれた。会長と公使は旧知の間柄で、駐日モンゴル国特命全権大使が到着されるまでの間、公使の現況などについて歓談された。

その後、ダンバダルジャー・バッチジャルガル駐日モンゴル国特命全権大使が大使館に到着され、調印式前の時間を使って工藤会長と歓談。特に、前日開催された「柔道競技オリンピック正式種目採用55周年記念 Galaパーティー」に大使も出席されたとのことで話がはずみ、大使のご子息のことまで話が及んだ。

最後にモンゴル柔道連盟のブフバト専務理事が大使館に到着し、本日の調印に欠かせない方々が揃い、いよいよ調印という運びになった。バッチジャルガル大使を中央に、左右にそれぞれ工藤会長、ブフバト専務理事が着席し、三者による協定書の調印式が行われた。

調印後に出席者全員がシャンパンで乾杯し、協定が無事に締結したことを祝った。バッチジャルガル大使、工藤会長、ブフバト専務理事の順で、一言ずつ挨拶があり、いずれも日本とモンゴル国の友好に資するとともに、モンゴル国代表選手にとっても大変有意義な協定が締結できたことを喜ぶ内容であった。

それに加えて工藤会長は、「2020東京オリンピックでは、モンゴル国代表選手に精一杯活躍してもらい、ぜひメダルをとってほしい」と述べた。三者の挨拶が終了後、モンゴル国柔道代表選手のサポート協力に関する協定の調印式が全て終了した。

また、日本柔道整復師会では8月6日からモンゴル国での柔道合宿へ柔道整復師を派遣し、2019世界柔道選手権東京大会へ臨んだ。次ページにて現地派遣会員より報告する。

（報告 日整渉外部）